晴れのち青空

福井の女性キャリア相談記 4

松岡 幸代

再就職したいけど自信が…

「すみません。キャリア相談を受けたいのですが…」と申し訳なさそうに現れた女性、Eさん。傍らには、薄紅色のほっぺ、まんまるの目をした女の子が、興味深げにあたりをキョロキョロと見回している。

「あら、かわいい。こんにちは」と声をかけると、さっとお母さんのうしろに隠れ、スカートの裾をぎゅっと握っている。

Eさんは、短大を卒業後、小さい会社の経理事務として働いていたが、結婚を機に退職し、この十年間ずっと専業主婦をしてきた。三人目の子どもが幼稚園に入ったので、そろそろ社会に出て働こうと思い求人情報を見るけれど、なかなか次の一歩が踏み出せない。その後の話からは、Eさんにとってこの十年間のブランクはとてつもなく大きく感じ、職場になじめるだろうか、任された仕事をきちんとこなせるだろうか、と自分に自信がないことが伝わってきた。

んー、なるほど…。そこで私は一つ質問してみた。

「結婚前の経理のお仕事で、Eさんが楽しいとか充実していると思ったときはどんなときですか?」

いわゆる成功体験を思い出してもらい、少しでも自信を取り戻してほしかった。

Eさんはしばし沈黙の後、「…伝票に記載する方法で、上司に効率的なやり方を提案したら受け入れてくれたことですかね。んーでも、経理なんて毎日のことをミスなくこなすだけで、特別なことは何も。すみません…」。

私は、「Eさんには、任された仕事を正確に、責任を持ってこなす能力があったからこそ、上司は信頼し、Eさんの提案を受け入れてくれたんじゃないでしょうかね?」と、思ったことを伝えた。

「そうですかね~? そんなすごい能力なんてないんじゃないかな~」と首をかしげるEさん。複雑な表情を見せた。

事務の仕事は、一見派手な仕事ではないけれど、縁の下の力持ち、自分では気付かないさまざまな能力が備わっているはず。もちろんEさんにだって…。それに気付いて自信を取り戻せたら、一歩前に進めるだろうけど…。その後どんな話をしても、何となく自信を取り戻すことを拒んでいる感じがする。

そこでいったん話題を変え、子育てのことを聞いてみることに。すると、待ってましたと言わんばかりに、大変な日々、楽しかった思い出…いろいろ話してくれた。そのときのEさんはキラキラ輝いて見えた。

仕事、家庭も100%はムリ

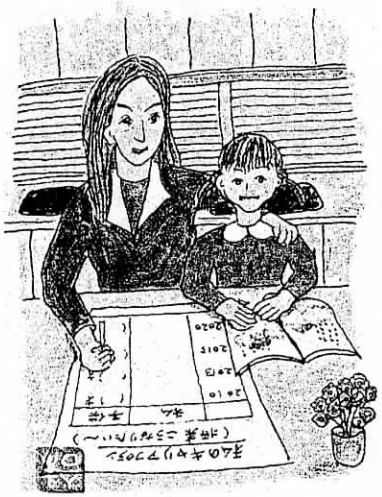
「なぜ、仕事を始めようと思ったんですか?」と、気になっていた質問をした。「ママ友が仕事と家庭を両立していて、『毎日大変だ~』と言いながらも楽しそうで。私は、家庭のことばかりで取り残されているような感じがして」と、ポツリポツリ答えるEさん。私は「『キャリア』は、一人一人違っていいもの。仕事で百パーセント、家庭で百パーセントなんて絶対ムリな話。Eさんの本当の気持ちに素直になって、それをやって百パーセントならいいんじゃないですか?」。

さらに、「ただ、今から五年後、十年後、どうなりたいのかだけは思い描いてくださいね」と話す間、Eさんは頷きながら聞いていた。

「ねぇ、ママ~」。張り詰めていた空気が一瞬緩んだ。「ねぇママ、これなぁに~?」。今までとてもおりこうさんにしていた女の子、いよいよタイムオーバーか。構ってほしくて声をかける女の子にEさんは、「これはね…」とにこやかに返事をする。三人のお子さんに、こうやって愛情をいっぱい注いできたことをほほえましく思う。半面、なかなか自分の本当の気持ちに気付く時間もなく、家族のために忙しくしているのだろうなあ…。

「こんなふうに自分のことを話したのは初めてです。子どもたちの成長のことも含めて、もう一度自分と向かい合ってみます」とEさんは言い残し、女の子を抱きかかえて帰っていった。その後ろ姿は凛としていた。

（福井新聞社提供）



イラスト・多田くにお